

就学前親子療育通所教室 A における遊びプログラム動画の開発と成果検証

大阪芸術大学 初等芸術教育学科 特任教授 寺田 恭子

【研究目的】

子どもの心の発達や自己肯定感には、親の養育態度や感情、親の自己肯定感のありようが強く関係することは多くの先行研究(加藤・中島 2011、安治 2014、田所・大塚 2015、寺田 2021)から明らかになっている。法人Cは、2017年に就学前親子通園療育教室A(以下、親子教室A)を開設した。親と子が一緒に参加することで、子どもの心が安定し、また、親自身も親同士の子育てを共有することにより子育ての不安が軽減されたり、悩みを相談し合うことができようになった。そして、親子教室を継続したことによって、親自身が前向きに子育てに取り組むことができるようになった。親子教室Aにおいてさらに親子で楽しく参加できるための遊びプログラム動画の開発とその成果について検証することが目的である。

【研究の背景】

本研究の対象である親子教室Aは、軽度発達障害児の通園施設である。親子教室Aを法人Cが開所した背景には、2015年に開設した障害児通所支援(多機能型)放課後等児童サービスB(以下、放課後等サービスB)において、スタッフたちが感じた「親と子の関係性」に因る点が多い。親が子どもの心や障害に正しく向き合えない、子どもと関係性を構築することから逃げる、うるさがるなど、それがそのまま子どもの心の発達に影響を与えていると感じた。こうした親に育てられた子どもの自己肯定感の低さから、他者への過剰な攻撃となったり、落ち込んだり、過剰に感情的になったり、子ども自身が混乱する日々を送ってきた。そのような状況の中、法人Cは、2017年に親子教室Aを開設した。「1歳6ヶ月健診時において発達がちょっと気になる」「保健センターから療育を受けたらどうか」とすすめられた幼児親子と一緒に通所し、療育に参加する活動スタイルにしたところ、子育てにおける親の意識が前向きになり、それが子どもにも良い影響を及ぼしていると、多くの現場スタッフが指摘する。

更に親と子が一緒に取り組む「遊びプログラム」を開発することによって、親と子の主体性が相互に影響を与え、親と子のそれぞれの自己肯定感が高まり自信をもつことが出来ること、その結果親と子の関係性は円環的に良好なものになると推察される。

【研究方法】

本研究の親子教室Aの親子運動プログラム開発と動画作成については、C法人の「ゆりかご研究会」(6名)を中心に検討を重ねた。「ゆりかご研究会」は、本研究代表者が10年以上監修をして、人の主体性の発達と関係性について研究をしている。動画については、家庭と親子教室で取り組むことのできる内容とし、人の系統発生をリズム体操に活かした内容を中心にプログラムを編成する。親と子が同じ目標で一緒に取り組むことによって、親と子の関係性の安定化を検証する。

【研究の結果】

1. 予め計画していた「人の系統発生をリズム体操に活かした内容を中心にプログラムを編成する」ために、

7月16、17日の2日間にわたって、大阪市平野区に在る末次保育園に「さくら・さくらんぼリズム遊び」の研修に参加した。メンバーは「ゆりかご研究会」(6名)と研究代表者である。「さくら・さくらんぼリズム遊び」は、斉藤公子が考案し、現在は全国の多くの保育所で活用されている。その理論は、個体発生は系統発生を繰り返す(ヘッケル)の生物の原則を基本として、人間は、魚類、両生類を経て進化したことから、リズム遊びの内容に、「金魚運動」や「両生類ハイハイ」を中心に脊椎運動を大切にしている。本研究の理論の柱が、人間の進化に伴って環境に適応できる力=人の主体性がつくられたことや、脳の進化そのものがヘッケルが示す人の進化を示していることなど、斉藤公子理論と共通したことから、「さくら・さくらんぼリズム遊び」を中心にすることにした。

2. ゆりかご研究会は、9月24日、11月12日、1月14日、1月28日の計4回実施した。9月24日の研究会で決定したこととして

①「遊びプログラム」として、リズム遊びをする前に親子と一緒に参加できる紙芝居をして、教室内の雰囲気をつつとまとめる

②教室内では、パワーポイントに動画を埋める形にして、保育者が一つ一つの動きのキーポイントを説明しながら動画をみて親子で身体を動かす、家庭においてはスマホに通しの動画を入れて、親子で一緒に身体を動かして遊ぶ、という形にすることを決定した。

11月12日に決定したリズムあそびの内容は、以下の通りである。

導入＝ぱびぶべぼーず

1 金魚、2 どんぐり、3 かめ、4 両生類、5 かえる

6 こうま、7 めだか、8 うさぎ、9 あひる

親子がペアになって

10 おふねはぎっちらこ、11 金太郎とくま、12 タオル・ソリ

13 タオル・ブランコ

参加者全員で

14 ひらいたひらいた、15 みんなで手をつなごう

3. 11月12日から1月14日まで取り組んだ動画撮影は、ゆりかご研究会のメンバーで実施した。動きに合わせてピアノ演奏をつけてもらい、身体の動きがわかるようにパワーポイントで留意点を書き入れることに決定し、誰もが指導できるように工夫した。

4. ゆりかご研究会最終日である1月28日に、パワーポイントと動画を確認し、「ゆりかごリズム遊び」と名付けた。

【今後の研究課題】

24年度4月から、保護者と子ども向けに「ゆりかごリズム遊び」を実施し、保護者向けのアンケート調査、観察調査を行い、成果検証したいと計画している。その結果をもとにパワーポイントや動画を修正をし、親子にとってより親しみのある「ゆりかごリズムあそび」を完成したいと考えている。